

子どもの未来を創る取り組みを推進 小中学生向けのキャリア教育教材 「おしごと年鑑 2025」に協賛

システムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器メーカー・タカラスタンダード株式会社（本社：大阪市城東区、代表取締役社長：小森大）は、小中学校の児童・生徒に向けたキャリア教育教材「おしごと年鑑 2025」（朝日新聞社・朝日学生新聞社刊）に協賛しました。昨年度に続き、2回目となります。

「おしごと年鑑」は、2016年から毎年発行されているキャリア教育読本で、さまざまな「おしごと」を豊富な図版と親しみやすいイラストで紹介。仕事に関して子どもが素朴に思う質問に対して、企業の担当者が丁寧に答える分かりやすい構成になっており、子どもたちが将来の仕事に対するビジョンを描くための手助けとして、日本全国の小中学校（約3万校）と教育委員会、子ども食堂、学童保育所、小児病棟などに寄贈されています。

タカラスタンダードでは「子ども未来プロジェクト」として、子ども食堂や児童養護施設へのキッチンリフォーム支援など、子どもの未来を創る取り組みを推進しています。その一環で、昨年から同書に協賛。今回は「ホーローの登場でキッチンはどう変わったの？」をテーマに、キッチンの歴史を紐解きながら、小中学生をはじめとする多くの読者の方に、生活を快適にする仕事や住宅設備機器に関連する仕事について理解を深めていただくことを目指しています。

タカラスタンダードはこれからもさまざまな取り組みを通して、より多くの人により心地よい暮らしを楽しんでいただけるよう努めてまいります。

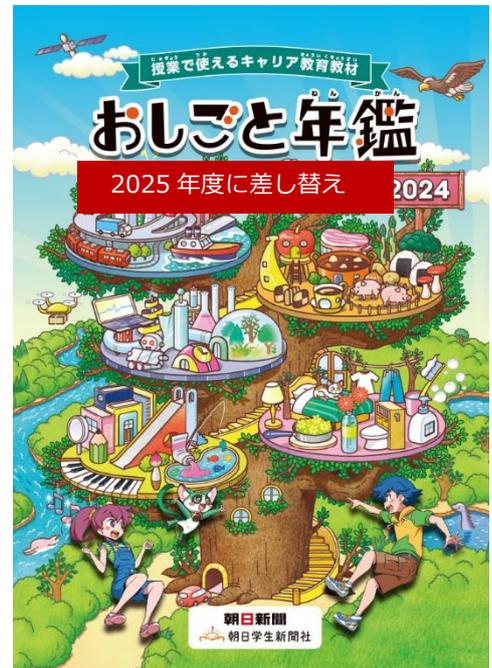
【ご参考】

▶タカラスタンダード特設サイト

<https://www.takara-standard.co.jp/company/csr/#children-nenkan>

▶おしごと年鑑公式サイト

<https://oshihaku.jp/nenkan/page/15749097>



<タカラスタンダードとは>

1912年創業。「水まわりって、大切だから」をブランドメッセージに、独自の「高品位ホーロー」技術を活かしたシステムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器を製造販売。より高度化、多様化、複合化するお客さまのニーズにお応えするホーロー技術のリーディングカンパニーとして、また住宅設備機器のトップメーカーとして、次世代を担う新たなホーローの可能性を追求し、快適な暮らしの創造を目指しています。

[設立：1912年5月30日（創業113年） / 売上高<連結>：2,433億円（2024年度） / 従業員数<連結>：6,560名（2025年3月末時点）]